

平成 28年 2月 1日

研究公開用文書

研究名：

消化管内視鏡画像診断と臨床病理学的診断の対比に関する後ろ向きコホート研究

研究の概要：

内視鏡機器の性能向上に伴い、早期消化管癌を含む種々の消化管疾患の診断技術が発展してきた。以前から消化管粘膜の表面構造や微小血管を拡大内視鏡で観察するという試みはなされていたが、画像強調観察を加えることにより、更に診断能の向上が得られるようになった。画像強調観察として、2006年に実用化された狭帯域光観察(Narrow band imaging, 以下 NBI)を筆頭として、AFI(Autofluorescence imaging)、FICE(Flexible spectral Imaging Color Enhancement)、i-scan、BLI(Blue Laser imaging)などが現在使用されている。また、endocytoscopy といった超拡大内視鏡も消化管疾患の診断に研究的に用いられている。内視鏡的粘膜下層剥離術(endoscopic submucosal dissection, 以下 ESD)の開発に伴い、早期消化管癌を内視鏡的に治療することが可能となったが、その前提として正確な質的・量的内視鏡診断が求められる。NBIをはじめとする画像強調システムを用いた内視鏡診断を検討することは、今後の診断能の向上、ひいては治療成績の向上に必要不可欠であると考えられる。よって消化管疾患に対して内視鏡診断を行った症例について後ろ向きに解析を行う。

研究対象：

消化管(食道、胃、十二指腸、大腸)疾患を有し、当院での内視鏡検査の同意が得られた症例

研究責任者：

横浜市立大学附属市民総合医療センター

所属： 内視鏡部 氏名： 平澤 欣吾

研究実施期間：倫理委員会承認日

平成 28年 ~~2月1日~~ ~ 平成 33年 1月 31日

連絡先：

横浜市立大学附属市民総合医療センター

所属： 内視鏡部 氏名： 平澤 欣吾

〒：232-0024 住所：横浜市南区浦舟町 4-57

電話：045-261-5656